

平成 30 年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価結果報告書

西之表市教育委員会

目 次

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の概要について……………	1
平成 30 年度点検評価について……………	2-11
・ 給食配送車更新事業（総務課）……………	2
・ 地域に根ざした人材活用事業（学校教育課）……………	4
・ 西之表市複式小学校「中 1 ギャップ」解消事業（社会教育課）……………	6
・ 種子島家住宅保存活用事業（社会教育課）……………	8
・ 長浜市少年スポーツ交流事業（社会教育課）……………	10

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条の規定に基づき、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を実施することとなっております。また、同条 2 項の規定に基づき、点検及び評価の際には、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとなっております。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

○点検及び評価の流れ

- ・対象事業の選定（10月3日）

平成 30 年度点検評価の対象とする事業（平成 29 年度実施事業）は、西之表市の行政評価の仕組みに基づき、事務事業評価の対象となる事業の中から、教育委員会において選定することとしております。本年度は、給食配送車更新事業、地域に根ざした人材活用事業、西之表市複式小学校「中 1 ギャップ」解消事業、種子島家住宅保存活用事業、長浜市少年スポーツ交流事業の 5 事業が選定されました。

↓

- ・自己評価

選定された事業の自己点検評価シートを作成

↓

- ・外部評価（10月16日）

西之表市教育委員会外部評価委員会において意見聴取

↓

- ・教育委員による評価（11月7日）

定例教育委員会において意見聴取

↓

- ・外部評価委員と教育委員による合同評価（12月7日）

↓

- ・結果報告書を議会へ提出

↓

- ・公表

外部評価委員

内田 節生	行政経験者
郷内 信成	元学校長
塩崎 義政	校区長
砂坂 きよみ	PTA 役員

自己点検評価シート

事務事業名	給食配送車更新事業		担当課	教育委員会総務課	
事業概要	対象	給食の提供対象である児童生徒			
	手段	入札・契約審査委員会→指名通知→入札→業者決定→業者との協議			
	意図	給食の提供を確実にを行うことで学習環境の整備充実を図る。			
平成29年度事業内容	平成14年度の設立から平成29年度で16年目に入り、配送車の故障による修理の頻度が増えてきており、3年かけて2台ずつ6台の配送車を入れ替える。事業費の用途は手数料・公課費・備品購入費である。				
事業費	平成29年度決算額	14,653千円	平成30年度予算額	15,532千円	
評価指標			目標値	実績値	達成率
	更新した給食配送車／更新を必要とする給食配送車(%)		100	100	100%
	更新した給食配送車(台)		2	2	100%
取組内容	学校給食を欠食なく小・中学校へ安全に配送するため、老朽化した給食配送車2台を更新した。				
成果	業者選定から架装発注まで約半年要するが、6月には入札・発注が完了し2月の納車まで余裕を持って行程をこなすことが出来た。				
課題	特に問題は生じていないが、平成30年度で更新完了となるので継続していきたい。				
今後の方向性	業者選定から架装発注まで約半年要するが、6月までには入札・発注が完了し2月の納車まで余裕を持った行程にしていきたい。				
評価 ○…妥当、適切 △…一部見直しが必要 ×…全面的な見直しが必要	妥当性	<input type="radio"/> 現状の課題の解決手段になっているか			
		<input type="radio"/> 市が行うべき仕事か			
		<input type="radio"/> 正しい成果認識による成果の把握ができていないか			
	有効性	<input type="radio"/> 成果の向上余地はあるか			
		<input type="radio"/> 類似の事業が他にないか			
		<input type="radio"/> 市民や事業所との役割分担は適切に認識されているか			
	効率性	<input type="radio"/> 成果を落とさずに事業費を削減する方法はないか			
		<input type="radio"/> 業務のやり方を工夫して業務時間を削減できないか			
公平性	<input type="radio"/> 同じ条件をもった市民や団体が公平に扱われているか				
	<input type="radio"/> 受益者負担は適正に設定されているか				
総合評価 (欄外参照)	A	平成28年度から平成30年度までの3か年をかけて毎年2台ずつ計画的に更新を行っている。			

総合評価
について

- A 計画どおりに事業が進展している。または、事業内容が概ね適切な事業。
- B 課題があり、事業の進め方や事業費等に一部見直しが必要な事業。
- C 課題が多く、事業内容や事業規模、実施主体の見直しが必要な事業。
- D 事業の統合・休廃止を検討する事業。または、課題が多く、抜本的な見直しが必要な事業。

外部評価委員会での質疑	<p>○配送車は6台とも同じ大きさか。 ・同じである。</p> <p>○食器類も更新しているのか ・本年度は、小学校のトレイを更新。来年度は中学校のトレイを更新予定。</p> <p>○配送車はガソリン車か。 ・軽油(ディーゼル)。</p>
定例教育委員会での質疑	<p>○平成29年度決算額に対して、平成30年度予算額が増加している理由は。 ・車両価格、輸送費の高騰。</p> <p>○指名業者は市内業者か。 ・市内11者中7者が入札参加。</p>

自己点検評価シート

事務事業名	地域に根ざした人材活用事業	担当課	学校教育課
事業概要	対象	(1)教職員 (2)児童・生徒	
	手段	講師として地域在住者や他校教職員等の人材を活用する。	
	意図	(1)教職員の指導力向上に資する。 (2)児童生徒の豊かな人間性の育成に資する。	
平成29年度事業内容	講師として地域在住者や他校教職員等の人材を活用し、講師を務めた方へ謝金を支払う。 29年度は、種子島出身の盲目の声楽家を招き、全児童を対象とした講演会を開催した。		
事業費	平成29年度決算額	116千円	平成30年度予算額 116千円
評価指標		目標値	実績値 達成率
	本事業対象講演等開催数	50	29 58%
	事業満足度		-
取組内容	講師として地域在住者や他校教職員等の人材を活用し、講師を務めた方へ謝金を支払う。		
成果	講師派遣申請数は年々伸びていることから、各校の本事業に対する期待度が高まっていると考えられる。		
課題	平成29年度に開催した種子島出身の盲目の声楽家による講演会については、内容が当該年度に確定した。このような当該年度に入った後に事業内容が確定する場合、予算の確保が難しい。		
今後の方向性	本事業により、専門的な研修を実施することができており、その成果をさらに向上させていく。講師派遣の回数については学校でばらつきが見られるので、できるだけ公平に派遣できるようにしていく必要がある。		
評価 ○…妥当、適切 △…一部見直しが必要 ×…全面的な見直しが必要	妥当性	<input type="radio"/> 現状の課題の解決手段になっているか	
		<input type="radio"/> 市が行うべき仕事か	
		<input type="checkbox"/> 正しい成果認識による成果の把握ができていないか	
	有効性	<input type="radio"/> 成果の向上余地はあるか	
		<input type="radio"/> 類似の事業が他にないか	
		<input type="radio"/> 市民や事業所との役割分担は適切に認識されているか	
	効率性	<input type="radio"/> 成果を落とさずに事業費を削減する方法はないか	
		<input type="radio"/> 業務のやり方を工夫して業務時間を削減できないか	
公平性	<input type="checkbox"/> 同じ条件をもった市民や団体が公平に扱われているか		
	<input type="radio"/> 受益者負担は適正に設定されているか		
総合評価 (欄外参照)	B	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて講師を派遣することによってより専門的な研修を実施することができていることから考えると成果があると考えられる。 ・講師派遣の回数については学校でばらつきが見られるので、できるだけ公平に派遣できるようにしていく必要があると考える。 	

総合評価
について

- A 計画どおりに事業が進展している。または、事業内容が概ね適切な事業。
- B 課題があり、事業の進め方や事業費等に一部見直しが必要な事業。
- C 課題が多く、事業内容や事業規模、実施主体の見直しが必要な事業。
- D 事業の統合・休廃止を検討する事業。または、課題が多く、抜本的な見直しが必要な事業。

<p>外部評価委員会での質疑</p>	<p>○講師の派遣は、学校からの要望によるものか。 ・学校からの講師派遣申請による。</p> <p>○年ごとのテーマがあるのか。 ・学校の希望による。</p>
<p>定例教育委員会での質疑</p>	<p>○平成29年度は講演会が当該年度に確定し、予算確保に苦慮したとのことだが、経緯は。 ・平成29年3月に本人から申出があり、本事業で実施することを決定した。</p> <p>○平成30年度の予算額も同額であるが、同様の講演会を開催するのか。 ・昨年同様の講演会は、本年度は予定なし。</p> <p>○児童生徒に対するものと、教職員に対するものの比率は。 ・平成29年度の実施状況は、児童生徒向けが17回、教職員向けが12回。</p> <p>○学校により回数にばらつきがあるということであるが、教育委員会から依頼等しないのか。 ・各学校で、本事業によらない地域の人材活用が行われている実態があるので、本事業の周知をしていく必要がある。</p>

自己点検評価シート

事務事業名	西之表市複式小学校「中1ギャップ」解消事業			担当課	社会教育課
事業概要	対象	市内小学6年生			
	手段	種子島中学校への入学を控える複式小学校の6年生を対象に仲間づくり等の活動や体験活動、中学校入学に関する研修等を実施。			
	意図	研修や体験活動を通して、同じく入学を控える他校の生徒との友好の広げるとともに、事前に中学校入学へ向けた研修をすることで入学に対する不安を解消させる。			
平成29年度事業内容	市内唯一の中学校である種子島中学校への入学を控える複式小学校の6年生を対象に仲間づくり等の活動や体験活動、中学校入学に関する研修等を実施し、小規模校から大規模校へ入学する等の環境の変化によるストレスなどの、所謂「中1ギャップ」を解消する。 プログラムの設定、参加者の募集・決定、資料作成等、活動の実施(指導)等				
事業費	平成29年度決算額	159千円	平成30年度予算額	159千円	
評価指標			目標値	実績値	達成率
		参加者数(人)	30	11	37%
		市内中学校1年生の不登校者数(人)	0	0	
		参加率(%)	31.4	17.9	57%
取組内容	ふるさとまなび～隊活動の宿泊体験と同時開催し、市内小学校6年生11人、ふるさとまなび～隊員24人の計35人での実施となった。2泊目からは6年生だけの11人で実施。				
成果	他校児童との交流を深め、友好の輪を広げて事業最終日を迎えることができている。事後アンケートにおいても、全員が友好の輪を広げられたと回答している。				
課題	小規模校からの参加が少ない状況となっている。学校行事や地域行事との日程調整や事業周知の徹底が必要。				
今後の方向性	他校児童との友好の輪を広げる活動はもちろんのこと、参加者一人ひとりの自主性・協調生の向上を目指す。				
評価 ○…妥当、適切 △…一部見直しが必要 ×…全面的な見直しが必要	妥当性	○ 現状の課題の解決手段になっているか			
		○ 市が行うべき仕事か			
		○ 正しい成果認識による成果の把握ができているか			
	有効性	○ 成果の向上余地はあるか			
		○ 類似の事業が他にないか			
		○ 市民や事業所との役割分担は適切に認識されているか			
	効率性	○ 成果を落とさずに事業費を削減する方法はないか			
		○ 業務のやり方を工夫して業務時間を削減できないか			
	公平性	○ 同じ条件をもった市民や団体が公平に扱われているか			
		○ 受益者負担は適正に設定されているか			
総合評価 (欄外参照)	A	中学校入学を控える前に研修・体験活動をして他校の生徒との友好を広げることは、入学後の不安を解消させる意味では非常に大事なことである。プログラム自体も今の子どもたちに、何が不足しているのか、何をやらなければならないのか、社会情勢も把握しながら社会教育、学校教育の連携による環境づくり、中1ギャップ解消事業体験者の入学後の動向についての検証も必要になる。			

総合評価について

- A 計画どおりに事業が進展している。または、事業内容が概ね適切な事業。
- B 課題があり、事業の進め方や事業費等に一部見直しが必要な事業。
- C 課題が多く、事業内容や事業規模、実施主体の見直しが必要な事業。
- D 事業の統合・休廃止を検討する事業。または、課題が多く、抜本的な見直しが必要な事業。

<p>外部評価委員会での質疑</p>	<p>○この事業を始めた背景は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校から中学校への進学において、新しい環境での学習や生活へ移行する段階で、不登校等が増加したりする現象を中1ギャップという。 ・小規模校から大規模校へ進学する際の不安を解消する目的で、平成27年度から実施している。 <p>○事業開始以前には、実際に不登校やいじめ等あったのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業開始のきっかけとして、特に不登校やいじめがあったわけではない。 ・評価指標としている不登校者数は中学1年生の数であり、中学生全体では平成29年度21名、平成28年度25名。 <p>○イベント的な事業以外に、通常の学校生活の中で、ギャップ解消に向けた取り組みはないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育面では集合学習を実施しており、本事業は社会教育面での事業である。 ・学習面では、集合学習により、普段複式学級のところを単式で学習できる。生徒指導面では、生徒指導主任等研修会により、小学校と中学校の連携を深めている。 <p>○大規模校と小規模校で学力に差があるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西之表市の学力は県内でも上位であり、その中でも小規模校が上位にある。
<p>定例教育委員会での質疑</p>	<p>○学校教育課が実施し、教育課程に位置づければ参加率を上げられるのでは。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育課では集合学習を実施し、子どもたちのつながりができ、教職員の指導の充実にもつながっている。 ・本年度は8月下旬に実施し、送迎等も考慮して土日に合わせた日程としたが、スポーツ少年団等の行事が重なってしまい、参加率が低かった。開催時期について検討していく必要がある。 <p>○参加者は何らかの不安を持つ者か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不安を抱えている方々に参加いただくのが理想ですが、実際にはこのような行事に積極的な、意識の高い方々の参加が多いと思われる。

自己点検評価シート

事務事業名	種子島家住宅保存活用事業		担当課	社会教育課	
事業概要	対象	市民			
	手段	住宅および周辺の整備、管理体制の検討、住宅の利活用の促進。			
	意図	自分たちの郷土の歴史や文化財に興味をもってもらい、文化遺産を後世に残していくとともに、市民に文化財愛護の啓蒙を行う。			
平成29年度事業内容	平成20年度に購入した種子島家住宅の保存、管理、活用を行っていく。常に情報を共有するため連絡会の開催等。				
事業費	平成29年度決算額	4,095千円	平成30年度予算額	4,218千円	
評価指標			目標値	実績値	達成率
		入館者数(人)	9500	9661	102%
		郷土の文化財に愛着・誇りを持っている人の割合	63	61.2	97%
取組内容	今年度は、県の補助事業を活用し景観に配慮した屋外トイレを設置できた。				
成果	おもてなしが好評で入館者が、開館時より毎年増加している。				
課題	最近大人数での入館者が増えてきた。その対応についても協議していく必要がある。				
今後の方向性	団体客の増加に伴い、忙しくなることは良いことだが、施設案内やおもてなしサービスが低下しないよう、共通券を発行する種子島開発総合センター「鉄砲館」との連携を密にして、サービス向上に努める。				
評価 ○…妥当、適切 △…一部見直しが必要 ×…全面的な見直しが必要	妥当性	<input type="radio"/> 現状の課題の解決手段になっているか			
		<input type="radio"/> 市が行うべき仕事か			
		<input type="radio"/> 正しい成果認識による成果の把握ができていないか			
	有効性	<input type="radio"/> 成果の向上余地はあるか			
		<input type="radio"/> 類似の事業が他にないか			
		<input type="radio"/> 市民や事業所との役割分担は適切に認識されているか			
	効率性	<input type="radio"/> 成果を落とさずに事業費を削減する方法はないか			
		<input type="radio"/> 業務のやり方を工夫して業務時間を削減できないか			
公平性	<input type="radio"/> 同じ条件をもった市民や団体が公平に扱われているか				
	<input type="radio"/> 受益者負担は適正に設定されているか				
総合評価 (欄外参照)	A	指定管理者である「ひとつ葉の会」の並々ならぬ努力で入館者も年々増加している状況にあるので、今後も連携を図る。観光面が表だって、本来の文化財としての認識が薄れないようにする必要もある。			

総合評価
について

- A 計画どおりに事業が進展している。または、事業内容が概ね適切な事業。
- B 課題があり、事業の進め方や事業費等に一部見直しが必要な事業。
- C 課題が多く、事業内容や事業規模、実施主体の見直しが必要な事業。
- D 事業の統合・休廃止を検討する事業。または、課題が多く、抜本的な見直しが必要な事業。

意見・要望等

外部評価委員会での質疑	<p>○へご自生群落等、他の文化財、観光地では、所有者が整備等を行っている所もあるようだが、対象は住宅だけか。</p> <ul style="list-style-type: none">・基本的に所有者の管理であるが、所有者、管理者の世代交代等に伴い、継承が困難になっている。観光面とも連携を図りながら、文化財の活用を考えていく必要がある。 <p>○指定管理者である「ひとつ葉の会」の今後の運営について、高齢化、後継者不足等の課題はないか。</p> <ul style="list-style-type: none">・現在は特に課題とはなっていないが、今後も、旧上妻家をはじめ活用していくべき施設があるので、今後の課題と認識している。 <p>○体験活動等を通じて、子どもたちに伝統の継承、文化財の保護に興味を持ってもらうような取り組みをしてみてもどうか。</p> <ul style="list-style-type: none">・鉄砲館では、説明文の表記を分かりやすいものにする取り組みを行っている。・夏休みには、キッズコンシェルジュによる案内を行っている。
定例教育委員会での質疑	<p>○入館者数が9,661人ということだが、その収益はどのようにしているか。</p> <ul style="list-style-type: none">・鉄砲館との共通券の利用や、減免での利用が多く、それほど収益は上がっていない。 <p>○文化祭等のイベントで利用する際も、利用料を徴しているのか。</p> <ul style="list-style-type: none">・イベントの種類にもよるが、市民文化祭での利用については、文化協会から施設使用料をいただいている。 <p>○評価指標の達成率が高いが、何が魅力と考えられるか。</p> <ul style="list-style-type: none">・「郷土の文化財に愛着・誇りを持っている人の割合」については、市民アンケートの結果であり、月窓亭に限定した数値ではない。 <p>○「ひとつ葉の会」の構成は。</p> <ul style="list-style-type: none">・年配者が多いですが、有志の方60名程でボランティア活動等を行っている。

自己点検評価シート

事務事業名	長浜市少年スポーツ交流事業		担当課	社会教育課	
事業概要	対象	市スポーツ少年団員			
	手段	両市のスポーツ交流を通じて信頼と友情を築いてもらう。			
	意図	青少年が、豊かな心身を育むことができる。			
平成29年度事業内容	平成29年度は、長浜市スポーツ少年団員が本市を訪問し、第30回記念大会として、開催した。(マリンスポーツ、ホームステイ、記念植樹等)				
事業費	平成29年度決算額	266千円	平成30年度予算額	758千円	
評価指標			目標値	実績値	達成率
		団員数(人)	300	264	88%
		スポーツ交流参加人数参加者数(人)	16	16	100%
取組内容	本市のスポーツ少年団員を隔年ごとに長浜市へ派遣しホームステイを通じ、スポーツ交流を行っている。次年度は長浜市の団員が、本年度派遣した団員宅にホームステイする仕組みをとっている。長浜市ではスキー体験、本市においてはマリンスポーツを主に体験し、交流を図っている。				
成果	両市のスポーツ交流を通じて、青少年の豊かな心身を育むことができている。				
課題	少子化が進み本市のスポーツ少年団員数が減少してきているが、この事業への参加者も少なくなっている。				
今後の方向性	平成30年度は、西之表市スポーツ少年団員を長浜市へ派遣する。(派遣者の募集、補助金交付事務、少年スポーツ交流帯同等)				
評価 ○…妥当、適切 △…一部見直しが必要 ×…全面的な見直しが必要	妥当性	○ 現状の課題の解決手段になっているか			
		○ 市が行うべき仕事か			
	有効性	△ 正しい成果認識による成果の把握ができているか			
		△ 成果の向上余地はあるか			
		○ 類似の事業が他にないか			
	効率性	○ 市民や事業所との役割分担は適切に認識されているか			
		△ 成果を落とさずに事業費を削減する方法はないか			
	公平性	○ 業務のやり方を工夫して業務時間を削減できないか			
○ 同じ条件をもった市民や団体が公平に扱われているか					
総合評価 (欄外参照)	A	スポーツ交流を通じて友情と信頼を築き、隔年ごとに長浜市、西之表市で交流活動を実施しており公平であり、なおかつ、ホームステイをするところこの交流事業の意味があると考えます。反面、年々スポーツ少年団の団員数の減少により、この事業に参加する団員も少なくなっており、今後事業内容の見直し等、これまでの実績を踏まえ検証する必要もある。			

総合評価について

- A 計画どおりに事業が進展している。または、事業内容が概ね適切な事業。
- B 課題があり、事業の進め方や事業費等に一部見直しが必要な事業。
- C 課題が多く、事業内容や事業規模、実施主体の見直しが必要な事業。
- D 事業の統合・休廃止を検討する事業。または、課題が多く、抜本的な見直しが必要な事業。

<p>外部評価委員会での質疑</p>	<p>○現在のスポーツ少年団の団体数は。 ・14団体。</p> <p>○以前は宿泊施設に泊まっていたが、現在はすべてホームステイか。また、費用の自己負担は。 ・すべてホームステイであり、受け入れ家庭間で行き来をしている。昨年の長浜市に行く際の費用負担は20,000円である。</p> <p>○ホームステイの期間は。 ・3泊4日。</p> <p>○内容は毎年決まっているのか。 ・西之表市で受け入れの際は、主にマリンスポーツ、長浜市に行った際はスキー。</p> <p>○親は同伴するのか。 ・子どもたちだけの参加である。</p> <p>○交流事業の対象は。 ・スポーツ少年団に加入している小学5年生及び6年生。 5年生時に長浜市に行き、6年生時に西之表市で受け入れ。</p>
<p>定例教育委員会での質疑</p>	<p>○この交流をきっかけに、その後も交流を続けている方はいるか。 ・交流後も連絡を取り合っている方がいると聞いている。</p> <p>○団員数減少について。 ・内容の見直しも視野に入れながら、継続できるよう努力する。</p> <p>○交流後に発表の場があればいいのでは。 ・スポーツ少年団の交歓大会等の場でできるのではないか。</p> <p>○昨年度は児童8名、指導者5名の参加ということだが、指導者の宿泊は。 ・指導者はホテル等に宿泊します。</p> <p>○個人負担はあるか。 ・ある。</p> <p>○参加希望者の面接等を行っているか。 ・学校からの推薦、事前の研修、面談等行っている。</p>